「違いの実感」に関する生活者意識

長期的な潮流である「消齢化」ですが、
生活者自身はその変化を
実感しているのでしょうか。
また、年齢だけでなく、
性別や地域による違いについては
どのように感じているのでしょうか。
その「違いの実感」を探るために、
生活総研は1,500名の生活者に対し
意識調査を実施しました。

「違いの実感」に関する意識調査［第1回］

調査概要

調査地域 東阪名3都市圏

調査対象 20～69歳の男女 1,500人

調査手法 インターネット調査

調査期間 2022年9月

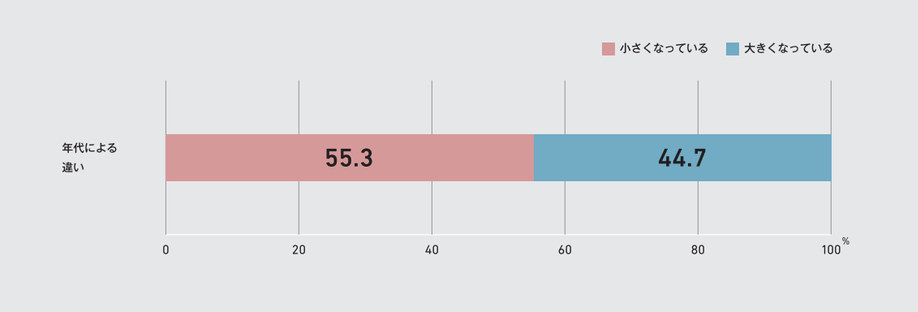
質問内容

Q.昔(10～20年ほど前)と今現在の社会のようすを比べたとき、性別や年代、住んでいる地域によって日常生活での考え方や行動の違いは小さくなっていると思いますか。それとも、大きくなっていると思いますか。それぞれについて、あなたご自身のお考えに近いものをひとつずつお答えください。

Q.暮らしの様々な分野では、性別や年代、住んでいる地域によってそれらの違いは小さくなっていると思いますか。それとも大きくなっていると思いますか。それぞれについて、あなたご自身のお考えに近いものをひとつずつお答えください。

年代による違いは、「小さくなっている」「大きくなっている」が生活者の実感では拮抗

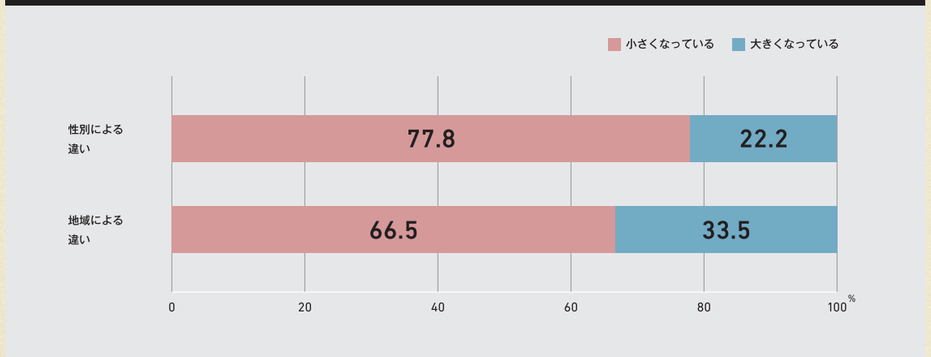
考え方や行動の違いについて【年代による違い】



「昔(10〜20年ほど前)と比べて、年代によって考え方や行動の違いは小さくなっているか、大きくなっているか」の実感を生活者に聴取したところ、「小さくなっている」55.3%、「大きくなっている」44.7%と、ふたつの意見が拮抗しています。「小さくなっている」が半数を超えてはいるものの、消齢化は生活者にはまだそれほどはっきりと認識されてはいないようです。

性別や地域による違いについては、「小さくなっている」が多数派

考え方や行動の違いについて【性別・地域による違い】

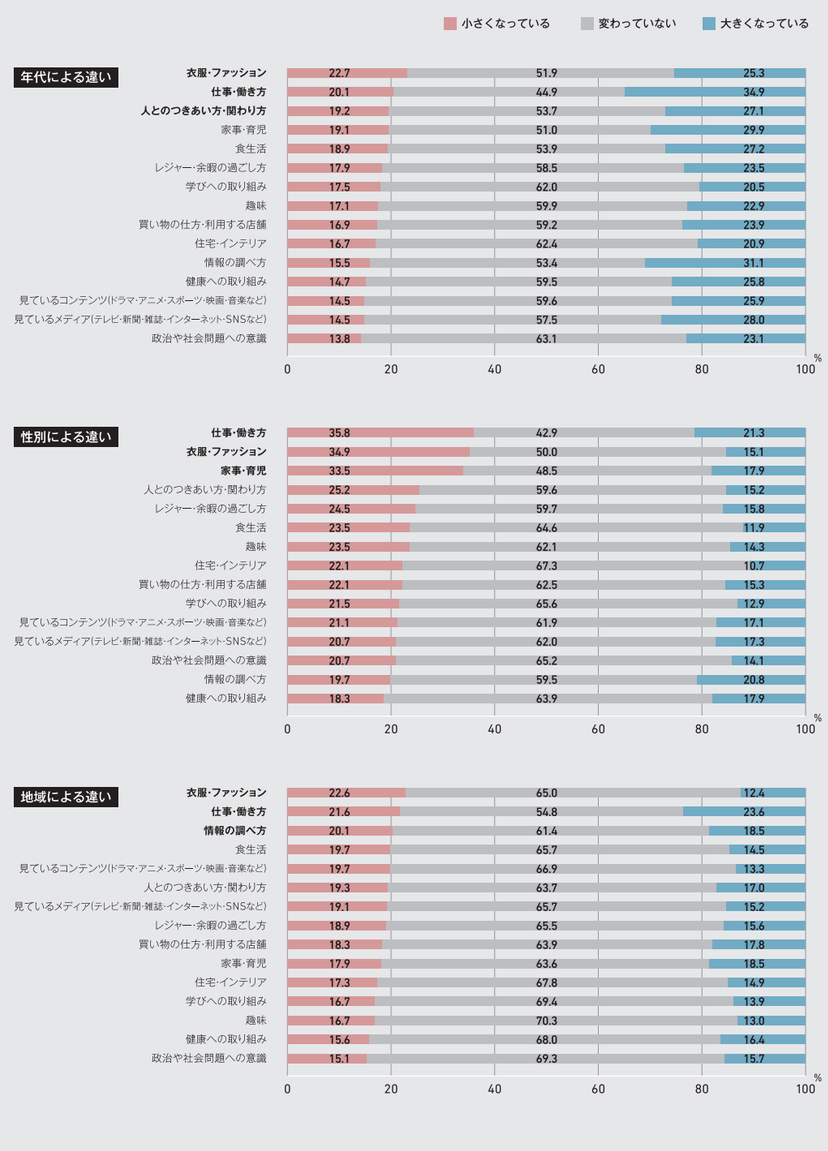


一方、性別や地域による違いは、「小さくなっている」と感じている生活者が多数派となっています。
特に性別による違いは、約8割の人が「小さくなっている」と実感しており、現状では、生活者は消齢化以上に性別や地域による違いの縮小を肌で感じているようです。

違いが小さくなっていると感じる分野は、「衣服」「仕事」が共通して上位に

さらに15の分野ごとに「考え方や行動の違いは小さくなっているか、大きくなっているか」を聴取したところ、「小さくなっている」の上位3つのうち、年代、性別、地域すべてで「衣服・ファッション」「仕事・働き方」が入っています。加えて年代では「人とのつきあい方・関わり方」、性別では「家事・育児」、地域では「情報の調べ方」とそれぞれ異なる分野が挙がっています。

考え方や行動の違いについて【分野別】※「小さくなっている」スコアの降順に列挙



出典：博報堂生活総合研究所「違いの実感」に関する意識調査［第1回］